

# リュサの童話

おっちゃんだより

2013.4月号 Vol.45

(17もありがらごじごします)

(株) ISO

齋藤康弘

# 運ハート4 ~金運~



木  
木に住む少年 リュサは毎日、沼におっかいに行くことを母に言いつけられていた。沼の主であるタイツへに 森の木の実(リュサ)と魚(タイツ)を交換してもらうためだ。リュサの母はいつも2つの言葉の玉も持たせていた。

“お礼の玉”と“お詫言の玉”だ。交換の際はリュサの木の木の価値が小さいことから、2つの玉も添えて「ごめんなさい」とお詫言して、木の実を渡し、「ありがとう」とお礼をして魚ももらっていました。

しかしある日、リュサは2つの言葉の玉も落としてしまい、仕方なく木の実だけを渡すと、タイツはいつものように魚をくれたのでした。リュサは“なーんだ2つの玉は使わなくてもいいんだ”と思い、それ以降 使うことはなくなった。

そして、ある日いつものように木の実と魚を交換し終わらした時、タイツが酷く怒っていることに気づき、小荒で取り出した玉は、あがり金錆びていました。そして出てきた言葉は、「こんな魚臭いから木の実は少なくて当然だ!! もつ魚もよせ」 あせ、たリュサは小荒でポケットの中を探して やとび出たのも「くさい魚だから木の実は少なくて当然だ!!」と罵りの言葉だけだった。 それ以来 リュサの海を見たものは言葉もいなくなりました。

このお話は、あるマンガに描かれてたもので、偶然にみたので、日常の中で伝えなくてはいけないことは伝えないと、心まで変わってしまうのか? と恐くなりました。

お礼の玉 お詫言の玉 使わないうし 金錆びますよ

さて、運シリーズも4回目となりました。そこで私が実践していることを、こっそり教えちゃいます。 (効果の保証はありませんけど...)

- まず
- 貝財布は2個持っています。お礼用と、小銭用。
  - お礼をシワシワにしない。
  - お礼の向きをちゃんとする。(頭の向きを下にして入れます)
  - お礼は折り曲げない。
  - レシートはお礼用の貝財布には入れない (レシートは消費の裏付け)
  - そして... 落ちていた1円玉をみつけたら、私かレスポ一隊と(お) おぐ助けてあげる。
- ※ 大切にしてくれところに物が集まると聞いことかあります。 お金も大切に貯めよう。まだあります。

## 闇と光



光輝いている人の過去には闇もくぐりながら来たという言をよよく耳にします。喜劇王・チャップリン もその一人。彼の父はアルコール依存症で死亡。母は精神に異常をきたし、彼自身は孤児院などを転々とし、食わずに着る服も「ゴミ」だらけの服だったそうです。そんな少年時代を送った彼だからこそ、独特の世界感と、人生の悲哀を笑いに変える作品ができたのでしょう。

「闇があるから光がある。そして闇から出てきた人こそ、一番本当に光のありがたさがわかるんだ」 小林多喜二

「金閣寺には金箔の下には黒い漆が塗られている」 おっちゃん